

2012年

新年のご挨拶



病院長
新家 真



新年あけましておめでとうございます。

平成23年は、東日本大震災という千年に1回規模の未曾有の大地震とそれに続く原子力発電所の事故があり、政府と全国民がその対応・対策に振り回され、その結果に一喜一憂しつつ暮らした1年でした。被害を受けられた全ての方々に改めて心よりお見舞い申し上げたいと思います。

さて翻って当院の状況を見てみると、平成23年度は、何とか減価償却前赤字という経営状態から脱却でき、次の一步を踏み出した年でもあります。現時点では平成23年度決算は、決して楽観できる状態ではありませんが、前年度よりは大幅に改善しています。前年度から当院の新たな経営目標として、「職域医療サービスの向上」に加え「地域への貢献」にも努力し、近隣の方々との関係も大きく改善しています。これも医師・看護師・コメディカル・事務職の目的意識を共有した協力と地域の皆様のご理解の賜物と、病院を代表して改めてお礼申し上げたいと思います。しかしながら、医師供給という面では比較的恵まれた都区内という立地条件にあるにも拘らず、当院も必要な医師数確保が思うように進まない環境は変わっていません。実働医師数の圧倒的不足状況に陥った事実に対し政府は確たる方針も対策もないようですし、誰もその責任を取ろうとはしていないように思えます。

但し、当院には光明は見えています。平成24年度には、東大小児科医局から当院小児科に2名の医師派遣が決定しており、産婦人科にも東大産婦人科医局から平成23年度の1名に続いて更に1名の派遣をしてもらえそうで、これによりここ数年来の課題であった、当院の産婦人科・小児科体制の再建が軌道に乗る可能性が高くなっています。耳鼻咽喉科も昨年4月、東大耳鼻科のお世話により大ベテランの部長に1人常勤医として来て戴く事ができ、乳腺外科は独立し、心臓血管センターも正式に発足いたしました。平成24年度は、医療費改定もありますが、その中で公立学校共済組合中央病院中の中核病院の名に恥じない水準の医療を地域の方々と組合員に提供できるよう、心構えも新たに新年を迎えることを願っています。

陰暦では元日一月一日付近が立春に当たる事が多く、年賀状にも賀春、新春の語が用いられます（太陽暦では2月4～5日頃）。たまたま人日一月七日が立春にあたる年があり、晚唐の詩人羅隱により「一二三四五六七、万木芽を生ずるは是れ今日、・・・」の詩が読まれました。作者は、科挙の試験に12年間落第し続け、ついに諦めて長安からすこすごと故郷に帰るのですが、復路の町で12年前に科挙の試験を初めて受けに上京した時に知り合った雲英という美人の妓女と再会します。「12年も経ってまだ合格できてないの？」と急所をグサリと突かれ、「あんた美人だけど10年経ってもまだ嫁に行けないのと同じさ。お互い本当はとっくにそうなってもよい資格はあるんだから、きっと二人とも上手く行くさ。」と長年の連続落第にももへこたれずに相手の痛い所に切り返したその考え方の方でむしろ有名になった人です。当院も羅隱と雲英さんの如く、長きに亘って経常収支赤字という不本意な状況に苦しんできましたが、「一二三四五六七」の結句、「近水の遊魚、氷をほとばしらせて出（い）ず」の心境で春は近いと思われます。平成24年が皆様と当院そして日本にとりましても良き年でありますよう、心から祈りたいと思います。

平成24年 元旦